

心電図勉強会 2017.4.13

我々が日常臨床で多用している抗うつ薬には、心臓に対する副作用が全くないわけではありません。QT延長症候群やTorsades de Pointesなどの副作用が起こる事もあり、不整脈などの持病がある患者さんに注意する事はもちろん、定期的なモニタリングが推奨されています。

昨年、いしい記念病院内科部長を勇退され、三光舎を立ち上げられた長嶺先生に心電図の見方と使い方を分かりやすくレクチャーして頂きました。永年のご経験からツボを押さえて、初学者（であってはいけないのですが、学生レベルの知識しかない）対象に、原理的なことから救急蘇生のポイントまでみっちりご教示頂きました。



うちの医局だけでなく、研修医の先生たちも参加してくれました。この後、いつもの懇親会へと繰り出しました。心電図以外にも研究の着眼点や切り口、臨床データのまとめ方など貴重なヒントをたくさん頂きました。本当に感謝、感謝です。

以下、長嶺先生から頂いたレジュメの抜粋です。

歯科心身症の臨床と研究に心電図を応用しよう

An Electrocardiogram as a Research Tool for Psychosomatic Dentistry

三光舎 長嶺敬彦 先生

□心電図理解のポイント

☆心電図は何を見ているのか?

⇒心臓という筋肉細胞の電気活動を見ています.

☆電気活動とはどういうこと?

⇒心筋細胞の活動電位(action potential)です.Na⁺、K⁺が細胞内外の濃度差にしたがいイオンチャンネルを通じて受動的拡散を起こすことで発生します.

☆筋電図との違いは?

⇒心筋がまとまりのある収縮(ポンプ機能)をするために「刺激伝導系」があります.刺激伝導系を理解すると不整脈が理解しやすくなります.

☆どうして 12 の心電図波形があるの?

⇒電気活動をいろいろな方向から観察しているのです.視点を理解すると波形の理解が行えます.
